

青少年赤十字実践目標【国際理解・親善】

なかよしチャレンジ集会

「森の国国際学院の実習生と交流しよう」

集会活動へ御参加いただき、ありがとうございました。集会にすることで、親子で国際交流を体験することができ、とても良かったなと思います。一度に4か国もの国々の方と交流できることは珍しいことです。多国籍の実習生を受け入れ、日本語だけでなく礼儀作法まで御指導されている国際学院の先生方は、本当に素晴らしいと思います。改めて日本の良さにも気付くことができ、子供にとっても大人にとっても良い国際理解の場になったのでないでしょうか。

週末、虹の森公園やスポーツ広場で、実習生と一緒にサッカーをして遊ぶ西小の子供たちもいます。今回の交流を通して、正しく実習生のことを理解した子供たちが、今後実習生を見掛けたとき、自然に手を振ったり、挨拶を交わしたりする日常の交流が生まれることを期待しています。

- 外国から来て日本に住む人は、その場所のごみの捨て方を学ぶ。
- 日本の人に学び、住む場所を一生懸命掃除する。
- 日本人は、日本の良さに気付く。それを自信を持って続ける。
- 良さが広がる。なかよくなれる。



保護者の方の感想を紹介します。（一部抜粋）

- ・見掛けることはあっても、交流する機会がなかったので、子供たちにとってとても良い経験になったと思う。
- ・日本人特有の他人への距離感や不信感が、ときに差別につながるということが分かった。
- ・このような交際交流の機会が、これからも増えてほしい。
- ・松野町に多くの外国の方がいらっやると知らなかった。話し方など国による違いを知り、大人にも勉強になった。子供たちが見た目、言葉や文化の違いで分け隔てなく交流できる大人に育ってほしい。
- ・縦割り班での交流では、高学年が下学年を優しくリードし、良い手本となっていると感じた。
- ・「人」を通して「国」を知る、とてもいい機会になった。

保護者の皆様から、たくさんの御感想をいただきました。ありがとうございました。

子供の感想（日記より一部抜粋）

- ・ひらがなの発音など、外国の人にとっては難しいと分かりました。お互いに分かり合うことが大切だと思いました。楽しかったし、よく学びました。
- ・実習生の方の国の挨拶や文化が分かりました。また会ったときは、挨拶や手を振るなどしたいです。
- ・外国の方が日本語を上手にしゃべっていて、すごいなと思いました。差別をなくして、交流を増やしていきたいです。私たちと活動してくれた外国の方は、のりもいいし、優しいから好きです。外国の方に会ったら、積極的に話し掛けたいと思いました。
- ・外国の人の良い所を知ることができました。今まで自分の中には、外国に対して偏見がありました。どこの国かなどを考えず、だれとでも接することができる人に近付きたいです。